



年頭所感

北海道知事 高橋 はるみ

新年明けましておめでとうございます。道民の皆様とともに新しい年を迎えることができましたことを、大変嬉しく思います。

お陰をもちまして、私も、再び道政を担わせていただき、初めての新春を迎えました。皆様には、平素から道政各般にわたり深いご理解と暖かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、北海道の大切な「食」のブランドに影響を与える食品の偽装事件など、大変残念な出来事がありました。また、道職員が相次いで逮捕されるという不祥事が生じ、道政を預かる知事として、誠に申し訳なく思っております。この度の事態を厳しく受け止め、私自身を含め、道職員一人ひとりが深く自戒し、道民の皆様への信頼回復に向けてあらゆる努力を重ねてまいる所存です。

一方、昨年は、道民球団である日本ハムファイターズのパ・リーグ連覇、道産子ボクサー内藤大助選手の世界タイトル獲得、コンサドーレ札幌のJ1昇格など、スポーツが、私たちにたくさんの夢と感動、そして、元気を与えてくれた年でもありました。

また、道政との関連では、「北海道洞爺湖サミット」の開催決定や、両陛下ご臨席のもとでの「全国植樹祭」の開催といった明るい話題が続いたほか、自動車関連産業をはじめとする企業立地の活発化や、バイオマス、雪氷冷熱などを活かした新エネルギーの開発、活用の取組が各地で展開されるなど、北海道の明日につながる着実な歩みが見られた一年であったと感じております。

こうした中、道財政は危機的な状況にあり、改

めて行財政改革の見直しを行っていかねばなりません。しかし、私は、この改革は本道の未来を担う子どもたちへの責任、いわば希望を秘めた変革ととらえ、最善を尽くす覚悟であります。同時に、道政展開に当たっては、決して縮み志向に陥ることなく、北海道の将来を見据え、伸ばすべきものは伸ばす、そして、北海道の元気の源は、それぞれの地域の活力であるという観点から、地域経済の活性化はもとより、医療・福祉の充実など暮らしの安全・安心を支える、きめ細やかな取組をしっかりと進めてまいりたいと考えております。

北海道は今、経済や暮らし、環境といった様々な面で大きな転換期を迎えております。その一方で、各地域には、これまでそこで働き、生活してきた人々の歴史と文化が刻み込まれています。私たちはその貴重な財産を、時代の変化に合わせ、より豊かなものとしてしっかりと将来に引き継いでいかなければなりません。

本年七月には、「北海道洞爺湖サミット」が開催されます。サミットの開催は、北海道の恵まれた自然環境をはじめ、食や観光、文化など、あらゆる面で本道の価値を高める大きなきっかけとなります。私は、このチャンスを道民の皆様とともに大切にし、地域に根ざし、世界に開かれた新しい北海道づくりを進める飛躍の一年としてまいりたいと考えております。皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

新しい年が、皆様にとりまして、希望に満ちた幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。